

鎌ヶ谷市地域福祉計画策定・推進委員会（第2回会議）会議録

日 時：平成29年10月5日（木）13時30分～15時

場 所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター6階大会議室

出席者：九谷林太郎副委員長、石川宏貴委員、三好志都美委員、馬場一郎委員、徳田訓康委員長、三浦弘委員、山本幸子委員、福澤明二委員、近松光夫委員、田邊光子委員、中野洪委員、山根亜紀委員 以上12名

欠席者：川村浩幸委員 以上1名

事務局：社会福祉課 高橋徹課長、白藤盛敏課長補佐、會澤修主査、佐々木信悦主査補、鈴木里佳主事、鈴木隆之介主事 以上6名

関係者：鎌ヶ谷市社会福祉協議会 高橋良文事務局次長 以上1名

公開・非公開の区分：公開

傍聴者：0名

次 第：1 開会

2 議題

(1) 会議録署名人の選出について

(2) 第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について

(3) その他

3 閉会

会議録

1 開会

課長（高橋）挨拶

2 第2回会議

徳田委員長

策定委員会から推進委員会に変更された第1回会議を3月に実施した。そこで、計画の評価方法について確認いただいた。今回は、地域福祉計画に位置付けられた平成28年度における担当課が提出した各事業の進捗状況を我々委員が評価することになる。

本日の出席委員は13名中12名である。傍聴の希望者はいない。

議題（1）会議録署名人の選出について

徳田委員長

会議録署名人については、名簿順での選出とし、馬場委員と徳田委員とし、会議録は要点筆記とした。

議題（2）第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について

徳田委員長

議題2 第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について、事務局に説明を求める。

事務局（白藤）

今回初めて地域福祉計画の進捗管理ということで、暗中模索、手探りで事務作業を進めたことにより、委員の皆様には多大なるご負担をおかけしたことに對しお詫び申し上げます。また、本日このような進捗管理・評価シートをまとめることができたことに厚く感謝する。

資料1「進捗管理及び評価の流れ」について、委員のご意見をまとめたものをすでにお配りしているが、本日のご意見により修正を加え最終的なものにしたい。その後10月を目途に市長決裁を経て庁内連絡会議、11月を目途に評価結果について各課に報告、市ホームページに掲載、12月以降を目途として、事業の主体が市の場合は、地域福祉計画に示された施策の方向に沿って具体的な事業や各分野別の個別計画の反映を図る。また、事業の主体が活動団体や社会福祉協議会の場合は、それぞれの活動方針等に反映していただき、次年度の取組みに向けてそれぞれ連携を図りながら着手していくことになる。そして、このルーチンを毎年行っていくことになる。

資料2 第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画における平成28年度の評価についての推進委員会としての意見、これは委員の皆様の見解、行政への要望、市民、地域・団体のできることを一覧にまとめた資料である。評価シートはページ数が多く、表や文字も細かく、委員の見解や市民、地域・団体のできることの確認が難しいので、委員意見の一覧表を作成し、評価シートと一緒に公表しようと考えている。

本日、ご議論していただきたい内容としては、

- ・評価シートを通して、委員の皆さんは事業の実施状況を把握できたかどうか。
- ・課題解決のため、市民にできること、地域でできること、関係団体ができることがあったかどうか。
- ・委員の皆さんがこの評価に取り組むにあたり、問題になったこと、改善してほしいこと、それから良かったことなどを教えていただきたい。
- ・評価シートを公表するにあたり、委員の名前を実名とするか。A委員、B委員とするか。
- ・本日3つの作業部会に分かれてディスカッションするか。全体会議で話し合っ総括意見を出すか。
- ・各担当課の評価や委員の皆さんの意見を読んで、気になることなどがあるか。
- ・来年度以降もこのような形で進めていってよいか。

まずは、本日の会議の進め方として、作業部会に分かれるか、全体会議で総括意見を出すかを決めていただきたい。

徳田委員長

それでは、本日の会議の進め方として、作業部会に分かれるか、全体会議で総括意見を出すかについて、意見をいただきたい。

山本委員

作業部会ごとに意見を出したほうがよいのではないかと。

九谷委員

資料2のとおり、全体を見ながら全体会議で進めたほうがよいのではないかと。

徳田委員長

93の事業の一つずつ進めていくのか。

事務局（白藤）

最初の意見集約の後、委員の皆さんに再度修正版をお配りし、意見のお願いをしているので、すでに全体について概ね把握していただいていると思う。本日はご自分の作業部会以外のテーマのご意見も出していただきたいと考えている。

徳田委員長

全体会議で実施との声が多いのでそのように進めたい。それから、実名は伏せた形で公表するとの声が多いのでそのようにしたい。

九谷委員

自分の所属する受所自治体の名称も出てしまうがよいかと。

山本委員、三浦委員

個人名等ではないので、良いのではないかと。

事務局

再度チェックして個人情報の部分があれば目隠しをします。

徳田委員長

何か意見はあるか。

事務局

総括的な意見の例として、地域での支え合いを促進させるためには、自治会を巻き込んだ活動が必要ではないか。鎌ヶ谷市には100を超える自治会があり、それぞれ遭遇している環境が異なっており、そこから出てくる要望も違う。鎌ヶ谷市全体に通用するようなテーマではなく、地域に即した個別の問題点に目を向けるともう少し具体的なテーマが出てくるのではないかと。市の各部署が自治会と協働で実施できるような地域福祉のテーマを考えれば、地域のふれあい、支え合いにつながると考える。抽象的ではあるがこのような意見が参考になるかもしれない。

福澤委員

自治会の数100とあるが、正確な数字にしたほうがよいのではないかと。

中野委員

自治会連合協議会に入っている自治会とそうでない自治会がある。入っていない単位自治会は把握できていない。市民活動推進課に回覧物の配布の依頼のあった自治会は把握できるが、そうでない自治会もあるので全体の把握は難しい。

三浦委員

鎌ヶ谷市全体で45,000世帯あるが、そのうち28,000世帯しか入っていない。加入率は70パーセントに満たない。

福澤委員

この計画には、自治会に入っていないなくても情報を提供するような規定になっていると思う。情報の多くは自治会経由で伝わると思うが、約4割の人たちには情報が行かないと思う。

中野委員

公民館やコミュニティセンターに行けば置いてある。それを利用している人も多い。

三浦委員

市民には自治会に入っているいないに関わらず、市の情報は行くようになっている。

中野委員

自治会に入っていない市民は、市民活動推進課に情報提供を求めれば、自治会に入っている人と同じ情報を手に入れることができる。

福澤委員

情報の求め方を知らない人もいるのではないか。

中野委員

転入してきた人には、市民課でいろいろな資料を渡して情報提供をしている。把握していないのはすべて行政の責任とは言えない。広報かまがやも新聞折り込みなので自治会に入っているいないに関係なく届いている。

九谷委員

年に4回受所ニュースをつくっている。アパートの住人は自治会に入っていないが各班長にポスティングをお願いしている。

近松委員

市の世帯の把握は、複数世帯と数えている中で同居世帯もあるので、数字ほど情報から除外されているとは言えないのではないか。正確な把握は難しい。

中野委員

民生委員は自治会に入っているいないは関係なく情報を提供する役目がある。関わり方の多い少ないはあると思うが、完全にシャットダウンされているわけではないと思う。

徳田委員長

地域福祉計画は自治会に入っている人だけが対象になるわけではないので、公民館やコミュニティセンター等に置いてあることを広報やホームページでも一層知らせていく必要がある。

福澤委員

情報が伝わらないことに問題がある。高齢者のどれくらいがインターネットを利用してホームページを見ることができる環境や能力があるのかと感じたので質問した。

徳田委員長

ほかに意見等はあるか。

近松委員

事務局でよくまとめていただいたと思う。事務局で委員の意見とは違うがこのようにまとめたなどの例があれば紹介してほしい。

九谷委員

事務局でまとめたときに、よくわからない部分やもっと具体化したほうがよいなどあったと思う。それを紹介してもらって討論したほうがよいのではないか。

事務局

多少の字句の整理はしたが基本はそのまま載せている。担当課にダイレクトに伝えるためには事務局は手を加えないほうがよいと考えている。読ませていただいた中で意味が分からないものはなかった。

中野委員

評価シートの16ページの基幹相談支援センターとはどのような機能があるのかわからなかった。語句の説明があるとよいと思った。

三好委員

障がいがある方たちのための総合相談窓口である。市の委託で新鎌ヶ谷に「えがお」を最近開設した。仲間ネットが受けていて3人体制で障がい者の生活、施設、就労などあらゆる相談に乗っている。

現在の予定では面的整備になっているが、困ったときにすぐに対応できるよう地域に機能が分散するのではなく、拠点は一カ所に相談支援、短期入所、グループホーム、生

活介護等の機能さらにはシェルター的な役割を備えた方が利用者にとって便利であり、第5期障がい福祉計画に盛り込むべきと提案した。

徳田委員長

市民、地域、団体でできることの部分が空欄のところもあるが、これでよいか。

事務局

委員の皆様はそれぞれの団体に所属されていたり、その長であったりと個人のご意見を必ずしも言いやすい立場にないことも要因かと考えている。今後毎年振り返りをする中でどのような書き方をすればよいかとか、評価シートにおける行政の業務の理解度も進むと思うので、次年度はより多く埋めていただき最終年度には空欄がないようにしていただけないかと考えている。

福澤委員

資料2とA3版の評価シートの同じものを二つ載せる意味はあるのか。

事務局

A3版の評価シートには事業ごとの担当課と各年度の実績値が入る。数字で実績が出るので各担当課は実際あまり出したくないのが本音である。しかし市として実施している93事業の内容が正直に書いてある。その下には具体的な取組み、成果、進捗状況を市が自己分析する記載となっている。また、右側の欄には、平成29年度における課題や今後の方針及びその解決のために、市民や地域に協力してもらいたいことが市側の意見として書かせていただいている。この様式の良いところは、課題を見つけて市ができること、市民地域ができること、協働・共助で取り組んだほうがよいことをお互いが意見を出し合えるようになっていることだと思う。これまでは市から市民や地域に協力してもらいたいことを言いにくかったと思うが、これからの時代の地域の課題解決においては、お互いがフラットな関係でものを言い合える関係性が大事だと思っている。

それから、下に各委員からのご意見を掲載している。資料2「第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画における平成28年度の評価についての推進委員会の意見」は、この部分を切り取って委員の意見をわかりやすく掲載したものである。

山根委員

2種類のシートを掲載することと、表に情報がぎっしり詰まっているので見せ方を工夫しないと一般の市民にはわかりにくいのではないかと。

事務局

たしかに2つのシートの関係性や表の意味するところがわかりにくいかもしれないので、注釈や吹き出しなどによりわかりやすくする工夫をしたい。

九谷委員

地区ふれあい員も高齢化している。南部地区社会福祉協議会では月に一度サロン事業を実施しているが、若い人がなかなか集まらない。今後高齢化がますます進んでいく中で運営自体も難しくなっていくと思う。根本的に見直さないといけない時期に来つつあるのではないかと。何か良い方法はないかと皆さんと見つけられれば良いと考えている。

徳田委員長

委員から意見の出た語句の説明であるとか、ホームページの掲載方法であるとかの工夫は事務局にお願いし、今後より良いものになっていくようにしたい。

事務局

字句の説明、ホームページや広報での見やすい掲載方法の検討、図書館、公民館、コミュニティセンターなどへの配布により、より一層の啓発に努めたい。

近松委員

今回、行政自身でいろいろな課題について詳細に各業務の自己評価をしているが、かなり思い切ったことをされていると思う。大変な進歩であり大いに評価したい。他の計画でこのような取組みをしているのか。

事務局

関係各課には苦勞してもらい、時にはヒアリングによりまとめたものである。各課の担当者は苦勞したと思うが、外からの目で評価されているということはチェック機能が働くとともに良い意味での緊張感で事業を進めていくことになると思う。ほかの例としては、本市の基本計画に基づく実施計画では多額の経費を要するものを実施しているが、福祉関連の93もの事業を個別評価するような取組みはこれが初めてであると思う。いろいろな先進自治体の例を参考に會澤がレイアウトを考えてくれたものだが、今後はこのような詳細なものではなくても行政全般の業務においてPDCAサイクル（計画、実行、評価、改善）を繰り返すことで業務を継続的に改善する手法として取り入れていく必要があると考えている。

徳田委員長

その他について事務局から何かあるか。

事務局

この会議が終わり次第市長に報告させていただき、それから、委員の皆様からこのような意見や要望があったことを各担当課に報告し、市ホームページにも掲載させていただく。公民館やコミュニティセンター、広報など市民に届きやすい媒体方法を考える。

また、委員の皆様事前に送付した評価シートには、修正がいくつかあるので、市長決裁がおわったら、改めて送付させていただく。

今後ご意見があれば、よろしく願いたい。

それから、鎌ケ谷市避難行動要支援者連絡会議への出席依頼について報告したい。

先の震災において、高齢者や障がいをお持ちの方の多くが犠牲になったことから、国は災害対策基本法を改正し、市が定める地域防災計画において、新たな避難行動要支援者名簿を作成するよう義務付けた。

現在、策定中の地域防災計画において、一人暮らしの高齢者で要支援1以上であったり、障害者手帳をお持ちの方などを、避難時に支援を要する避難行動要支援者として位置付けたところ、約2,800の方が対象となった。

この名簿の情報を自治会、自主防災組織、民生委員をはじめとする地域の方々と共有することで、効率的な避難支援や日ごろの見守り活動に役立てようと考えている。

また、この名簿等を活用した災害時等における避難行動要支援者への支援がより実効性のあるものとなるよう、平成22年に策定した「災害時要援護者避難支援計画」を見直し、新たに「避難行動要支援者避難支援プラン（全体計画）」を策定することとし、この支援プランを策定するため、「避難行動要支援者連絡会議」を設置した。

この連絡会議は、庁内では安全対策課及び社会福祉課が中心となり、市民活動推進課、障がい福祉課、幼児保育課、こども発達支援センター、高齢者支援課、健康増進課、教育総務課、消防本部警防課、そして社会福祉協議会で構成した横断的なものとなっている。

また、日ごろから要支援者と地域で関わりのある自治会、自主防災組織、民生委員児童委員協議会、地域包括支援センター、ボランティア連合協議会、要支援者の関係団体として身体障がい者福祉会、聴覚障害者福祉会、手をつなぐ親の会などにも連絡会議に参加していただき、支援策の検討を行い、協働で避難支援プランを作成したいと考えている。

そこで、皆様方には、ご案内する予定の団体と殆どの方が関わっているのでお知らせしたい。

平成29年10月30日（月）午前9時30分から午前11時30分まで6階大会議室にて、鎌ケ谷市避難行動要支援者連絡会議を開催し、関係団体等を招いて意見交換をする予定である。ご案内が来たら、代表者を出していただきたく、お願い申し上げます。

徳田委員長

ただいまの事務局からの説明に対して、ご質問等はあるか。

三好委員

対象者はどのような人か。

事務局

避難行動要支援者名簿の対象者は、地域防災計画に位置付ける関係で限定列举している。例えば65歳以上でひとり暮らしあるいは高齢者のみの世帯で要支援1～2の方、介護保険の要介護3～5の認定を受けている方、身体障害者手帳1・2級の方など地域防災計画に位置付けた方になる。ただし、これに該当しない方でもひとりでの避難に不安をお持ちの方については対象者に入らせていただくこともできる。

徳田委員長

守秘義務規定の扱いはどうなるのか。

事務局

おっしゃるとおり、大事なところである。我々公務員や民生員児童委員は守秘義務規定があるが、自治会の方などはない。しかし、対象者約2,800人については避難支援に使う目的で地域において支援してくれる人に自分の個人情報を提供することに同意するかどうかの意思確認を行う。そのうち同意をいただいた人についてのみ情報を地域に提供し個別支援プランをつくっていくこととなる。おそらく他市の例から考えると当初は半分程度の同意にとどまるものと考えている。まずはその方たちから初めて徐々に広げていく必要がある。

中野委員

災害が起きれば多くの負傷者が発生する。千葉県には地域災害拠点病院がたくさんあるので、資料3の9ページの地域防災計画において、この地域災害拠点病院との連携について触れてあったほうがよいと感じた。今後自連協の研修で長野県の赤十字病院に行く予定である。この赤十字病院は地域災害拠点病院を取りまとめる基幹災害拠点病院に位置付けられている。先の御嶽山の噴火の際に非常に活躍した。白馬村の地震の際にも多くの家が損壊したにもかかわらず死者はでなかった。鎌ヶ谷市には地域災害拠点病院がないので他からの応援に頼る以上連携について考える必要がある。

事務局

会議録に、今いただいた意見を行政に対する要望事項として評価シートに加筆させていただきたいと考える。

山本委員

以前この会議であったと思うが地域医療について議題になった記憶がある。鎌ヶ谷総合病院等との連携によって病院に行くことが困難な人を対象に在宅でのサービスが受けられるようにしたいが、なかなかそのようにならないようである。

石川委員

医師会の立場からお話する。鎌ヶ谷総合病院は今のところ人的余裕がなく、当面救急病院として手一杯である。医師会としても地域包括ケアシステムを推進しているが、鎌ヶ谷市の中で在宅を専門にしている医者は医師会に加入していない。研修をしたり、ノウハウのあるところから講師の先生を招いたりして鎌ヶ谷市の在宅医療について模索中である。

徳田委員長

事務局において、今日の意見を取りまとめていただきたい。長時間にわたったが、閉会にあたり、副委員長の九谷委員から一言お願いしたい。

九谷副委員長

改めて資料3をはじめ資料全体は見やすいと思った。ここまで事業を担当する課が詳細に書いたものを見たことがない。これらの資料により本日活発なご意見があったことは良かったと思う。

今後も皆さんのお力を得て進めていきたいと思うので、よろしく願いしたい。

徳田委員長

それでは、これをもって、鎌ヶ谷市地域福祉計画策定・推進委員会第2回会議を閉会とする。皆さん、長い時間お疲れ様でした。

3 閉会

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

平成29年11月9日

氏 名 徳田 訓康

氏 名 馬場 一郎